

大気浮遊じんの放射能濃度測定結果

問合せ 生活環境課 ☎24-5231

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内10地点で収集した大気1m³あたりの放射性物質の濃度を測定しました。

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)		
		7/31-8/7	8/7-8/14	
小高区	川房公会堂 (川房)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.150	0.092
	金房小学校 (飯崎)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.074	0.048
	塚原公会堂 (塚原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.046	0.032
原町区	横川ダム (馬場)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.13	0.10
	原町保健センター (小川町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.051	0.036
	高平生涯学習センター (下高平)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.046	0.018
	市立総合病院 (高見町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.031	0.028
	大原公会堂 (大原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.048	0.055

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)		
		7/31-8/7	8/7-8/14	
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.028	0.040
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.018	0.016

※検出限界値はおおむね0.02~0.03mBq/m³の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、データの記載がない日は、放射能濃度が検出限界値未満の値であり「放射能不検出」と判定されます。

● 渡邊正己京都大学名誉教授
(市放射線健康対策委員会委員長)による解説●

第115回目
大気浮遊じん放射能測定結果の解説
(2019年7月31日～2019年8月14日)

今回も大気浮遊じんのセシウム137濃度の平均値が0.054 mBq/m³でした。極めて低く、健康影響の心配はありません。日本人が浴びている自然放射線量は、年あたり平均2.1mSvですが、そのうち食物から0.99mSv、大地から0.33mSv、空気から0.48mSv、宇宙から0.3mSvが由来するといわれます。これと比較して、0.054 mBq/m³のセシウム137から受ける年間の放射線量は、数10万分の1以下と桁違いに小さいのが現状です。